

## 被爆体験に関する懇談会の開催結果について（概要）

1 第1回目（4月12日（金））**（1）被爆体験談の公募について**

今年のテーマを公募の段階で明示するなど、方法を検討して募集することとした。（平成23年度、24年度は公募ではテーマを設けていなかった。）

**（2）被爆体験談の収集方法について**

昨年に引き続き、公募するほか、背景情報として懇談会メンバーが体験談を持ち寄ることによって合意した。なお、公募の際には、より多くの体験談を収集する観点から、書き下ろしでない体験談も募集し、昨年同様、聞き取り代筆も認めることとした。

**（3）今年の平和宣言に盛り込む要素について**

ア 昨年同様、「核兵器廃絶に向けた訴え」、「被爆者援護施策充実の訴え」、「平和への誓い」、「被爆の実相」、「原爆犠牲者への哀悼の意」の5つの要素を盛り込むこととした。

イ 時代背景を踏まえた要素として、以下の提案があった。

（ア）オスロでの「核兵器の人的影響に関する国際会議」のアプローチは注目すべきであり、これに言及してはどうか。

（イ）憲法改正の動き、北朝鮮の動向、黒い雨の判断、2020ビジョンなどの時事的な動きを盛り込んでどうか。

※ 公募では、新たに各都道府県の被爆者団体等へも募集チラシを送付した結果、昨年の2倍に当たる56点の被爆体験談が寄せられた。

2 第2回目（7月2日（火））**（1）被爆体験談の検討について**

応募のあった56点の被爆体験談の中から懇談会メンバーが今年のテーマに基づいて事前選考した17点及び2人のメンバーから提出された聞き取り体験談について議論した。

主な意見は、以下のとおり。

ア 8月6日の惨状、戦後の被爆者の苦しみ、それを乗り越えた平和への思いと若い世代へのメッセージという構成にするとよい。

イ 必ずしも引用する体験談の数を決める必要はなく、文章構成を考えながら柔軟に引用してもよいのではないかと。

**（2）今年の平和宣言に盛り込む要素について**

主な意見は以下のとおり。

ア 国際情勢を事細かに載せる必要はないが、核兵器の人的影響に関する共同声明など現にある動きには言及すべきではないかと。

- イ 来年の NPDI 外相会合については何か盛り込むことはできないか。
- ウ 北東アジアにおける非核兵器地帯化など、アジアへの言及も必要ではないか。

### 3 第3回目（7月17日（水））

#### **（1）被爆体験談を盛り込んだ平和宣言文案の検討について**

前回の議論をもとに選定した3点の公募体験談と懇談会メンバーである田邊雅章氏から提出された2点の体験談、計5点の体験談を盛り込み、これまでの懇談会の意見を踏まえた平和宣言文案を議論し、概ね了承を得た。（盛り込んだ公募体験談は、被爆当時8か月の女性、16歳の女性、14歳の男性の3人）